

3 日本との比較から

次に、視察の中で経験してきたアメリカの教会のような生活に密着した活動が、日本の社会にも残っているのかについて考えてみた。地域によって異なるが、日本の各地域にも仏教を中心とした組織や仕組みが残っており、自分の住んでいる尾張西部地域の一部では、次のような活動が行われている。

- ・ 「講」組という組織が残っており、月に1回、集会所に集まってお経を唱える。祭りなどの年中行事などもその単位で行ったり、いくらかを積み立てて、組の代表が伊勢詣でに出かける。現在では宗派を越えて行っているため、本来の趣旨とは異なった、「町内会」的な役割を果たしている。
- ・ 寺院の中には、夏休み中に子どもを対象に教室を開き、仏教に親しむような講話をしたり勉強会を開いたりしている所があるが、一部に限られている。

宗派や地域によって大きな差があるため一概には言えないが、弔事や供養、年中行事以外は、日本では宗教を意識する機会が少ないのは歴然とした事実であると思う。

アメリカの教会での活動は、単に信仰心を養うことだけでなく、地域のコミュニティーとして成り立っているような感を受けた。

礼拝に参加したり聞き取り調査をしたりした中で感じたことだが、それぞれの家庭が、互いに協力して子どもたちが健やかに成長するように声を掛け合ったり、互いの悩み事を相談し合ったりしていた。

また、教会は、社会教育の場という意味での「学校」であり、共有の財産であり、自分の家庭の一部であり、日常生活の大きな柱となっていることを実感した。教会の施設を案内してくれた時のカーデル夫妻の表情が、自分の家を案内するように誇らしげであったことが印象的だった。



4 おわりに

2週間の視察で、アメリカの様々な文化に触れる機会を与えていただき、いろいろな面で、自分の視野が広がったと実感している。この経験を、何らかの形で目の前にいる子どもたちと分かち合っていけたらと考えている。